

Sustain Asia Week 2024 視察レポート(タイ)

2024年8月にタイ・バンコクで開催されたSustainAsia Week 2024 を紹介する。

5つのイベントを同時開催

脱炭素・持続可能なASEAN経済をコンセプトとした、今年で4回目の開催となるSustain Asia Week 2024は、エネルギー関連分野の大規模展示会「Sustainable Energy Technology Asia (SETA) 2024」を含む、「Sustainable Mobility Asia (SMA) 2024」、「SOLAR+STORAGE ASIA (SSA) 2024」、「ASIA CCUS NETWORK」、「Energy Job Fair」の5つのイベントを1ホールに集約して同時開催されたアジア最大のサステナビリティイベントである。

5つのイベントの特色

「SETA2024」

エネルギー分野における新技術を中心とした展示

「SMA2024」

電動バイクや電気自動車(乗用車、トラックなど)、充電スタンドなどのEV関連の展示

「SSA 2024」

太陽光発電関連の展示

「ASIA CCUS NETWORK」

アジア地域における炭素回収・利用・貯蔵(CCUS: Carbon Capture, Utilization, Storage)技術の推進と普及を目的としたネットワーク。アジア地域全体での温室効果ガス排出削減の実現と、持続可能な経済成長に関するフォーラムの開催がメイン。

「Energy Job Fair」

タイ国内就職サイトJobsdb by SEEKがエネルギー分野の求人募集をイベント内で開催。



開催3日間で16ステージのプレゼンテーション、フォーラムを実施

Sustain Asia Week 2024の会場には3つのステージが設けられ、出展企業のプレゼンテーションだけでなく、クリーンエネルギーやゼロカーボンなど、脱炭素・持続可能をキーワードに、3日間で16ステージのプレゼン、フォーラムが執り行われた。

その中で、水素・アンモニアを題材としたフォーラムでは、タイのエネルギー分野での日本とのパートナーシップ、ラヨン県やナコンシータマラート県などでのガス火力発電所や再生可能エネルギー発電所の開発事例、再生可能エネルギー、アンモニアや水素を低酸素燃料として利用する技術の導入に関するプロジェクトといった、タイのエネルギーインフラ強化に向けた取組みについての紹介があった。



また「GO GREEN & LOW CARBON Japan's Showcase for SUSTAINABLE BUSINESS Collaboration」と題して執り行われたJAPANパビリオンに出展の日本企業12社によるピッチイベントでは、空調に特化した節電・省エネシステム、カーボンクレジット、断熱材、遮熱コーティング、太陽光発電、環境機器装置・水処理装置・再生プラスチック・スクラップなどの輸出入取引、事業者向け商用フリート(車両群)電動化ワンストップサービスなどの日本の技術が紹介された。

JAPANパビリオン以外での日本企業の出展状況

JAPANパビリオン以外での日本企業の出展状況は6社。そのうち2社は、タイでの実証実験を進めている企業であり、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)の事業にて、ブース出展。

株式会社イーグリッド(島根県出雲市)は、「電動バイクドライバーの運転時行動解析による消費エネルギーの効率化と安全運転の促進実証研究」の概要について紹介。2040年時点で、タイ国内での電動バイクの生産台数は約2300万台、利用台数は約1860万台に達すると予想されており、電力消費を低減するための技術が急務となることから、それに呼応する形でのタイへの技術提供を目指す。同技術は電動バイクのみでなく、EV化が進む公共バスへの転用も期待される。

株式会社トーケミ(大阪府大阪市)は、現在タイで進めている「既設メタン発酵関連エネルギー転換効率向上を実現するための実証研究」について紹介。蒸気エジェクタによる真空脱気→気液混合→凝縮衝撃の効果により、今まで分解しきれなかった有機物の分解を促進し、ガス発生量を増加させることで効率改善を実現。また、蒸気をメタン発酵槽に投入することで発酵槽内が加温され「高温消化」で制御・運用を行う。中温消化と比べて有機物負荷が上がり、処理速度が約2倍になるという。

今まで処理コストが掛かっていた汚泥から再生エネルギーを生み出すこの技術が、タイやASEAN地域で活用されることに期待感が高まる。



日本以外の海外からの出展状況と今後の成長

今年は、水素・アンモニア、ペロブスカイトなどの最先端技術の出展は見当たらなかった。日本以外では、THAILAND-KOREA ENERGY WEEKと銘打った韓国企業5社で構成されたブース出展があり、バッテリー、太陽光パネル、エアコンケーブルを展示していた。中国企業の出展は太陽光パネル、充電スタンドなど数社に限られており、最近バンコクで開催されている他の展示会と比べ存在感が薄く、日・中・韓以外の国からの出展はベトナム企業のみであった。今回のSETA2024について、JAPANパビリオンの担当者に話を聞いたところ、イベント自体は以前よりも小規模になっているが、訪問者は増加傾向にあるようだ。

タイにおいて自動車、電機、食品が産業構造の中心であることが影響しており、METLEXやTHAIFEXといった展示会規模の方が大きく、サステナブル関連のイベントの注目度がまだ低いのであろう。しかしタイ国内において、タイ大手財閥企業が世界の潮流を意識して、サステナブル関連の取組みに着手しているイメージがある。そのため、今後タイにおける脱炭素社会に向けたビジネスは大きく成長していくと考える。

【執筆者】笹本達也(IDEC横浜 海外サポートデスク)

【問合せ先】公益財団法人 横浜企業経営支援財団(IDEC横浜) イノベーション支援課国際ビジネス支援担当

TEL:045-225-3730 E-mail: global@idec.or.jp

相談申込みはこちら

<https://www.idec.or.jp/business/overseas/consultation.html>

または、右の二次元コードからどうぞ

